

春世老維新風雲談

末松謙澄編

伊藤侯爵應答

問 内田萬之助事件に付き辰の口評定所に召喚を受けられたる前後の状況を承りたし

内田萬之助居腹の頭未

答 どうも維新前後の事は面白くない事情が多いので、其の事實を書かすと可笑しいか書けば、又今日から見て可笑しいことも多いのである、

内田萬之助は、矢張り水戸の浪人で、安藤暗殺の仲間であつたが時間か後れた爲めに事の濟た所へ彼は駆付けた、そこで最早自分は手を出す所がないから、死處を求むる爲めに長州屋敷へ来たので、當時桂小五郎と云ふ名は水戸や諸藩の有志者間に知れ亘つて居つたものだから、其頃長州屋敷に有備館と云ふ文武を教へる學校みたやうな所が拵へてあつた其所へ桂を縁つてやつて來



出版部創設 20周年記念 維新回顧録叢書2

限定五百部

マツノ書店



井上 馨

伊藤 博文

目次

■伊藤公応答
内田清之助屠腹の顛末
大橋順蔵に関する件
高杉久坂中村等の関係
南八郎屠腹の状
京都に於て將軍刺殺の企
高杉西郷会見の有無
高杉軍艦三隻略奪の件
高杉俗論打撃の概文
諸隊の状況三氏洋行後の政府
伊藤岩国行の件
林朴庵及武器購入の件
林朴庵に邂逅の件
岩国々情偵察の件
木戸孝允掃蕪の状
英国公使パークス氏新任来朝の件
洋銃購入に託し薩摩と連合を図るの件
楠本文吉と長崎へ同行の件
軍艦を海援隊に貸与の件
軍艦購入に関する件
毛利父子於て会合の件
田尻に於て会合の件
維新の際英仏我国に対する態度
京都視察の件
京都に於て西郷に会合の件
木戸公と長崎へ同行の件
大政返上論の件
英人重井鉄之助の件
英艦に乗組及英学校創設
和議以来英人と親密の件
外交着手の件
閩藩開国論に傾く件
勝海舟広沢と会合の件
勝海舟和陸論失敗の件

高杉久坂中村等の関係
南八郎屠腹の状
京都に於て將軍刺殺の企
高杉西郷会見の有無
高杉軍艦三隻略奪の件
高杉俗論打撃の概文
諸隊の状況三氏洋行後の政府
伊藤岩国行の件
林朴庵及武器購入の件
林朴庵に邂逅の件
岩国々情偵察の件
木戸孝允掃蕪の状
英国公使パークス氏新任来朝の件
洋銃購入に託し薩摩と連合を図るの件
楠本文吉と長崎へ同行の件
軍艦を海援隊に貸与の件
軍艦購入に関する件
毛利父子於て会合の件
田尻に於て会合の件
維新の際英仏我国に対する態度
京都視察の件
京都に於て西郷に会合の件
木戸公と長崎へ同行の件
大政返上論の件
英人重井鉄之助の件
英艦に乗組及英学校創設
和議以来英人と親密の件
外交着手の件
閩藩開国論に傾く件
勝海舟広沢と会合の件
勝海舟和陸論失敗の件

木戸孝允慶喜公を寛典に処する主
論者の件
藩論伊藤を退身せしめんとするの
状況
薩摩の名義を借りて直接洋銃を購
求するの件
長崎薩摩邸に寄寓の件
井上薩摩に赴くの件
薩長連合の件
国是建白の件
胡蝶丸を以て洋銃輸送の件
日置帯刀神戸に於て外人に発砲の
状況
外交善後の処置
新政府設立の宣言
耶蘇教の件
壮士英公使の警護に切込む件
四境戦争の際の行動
癸亥丸の件
高杉と共に洋行を企つる件
横浜へ使命の件
王政復古論主唱及び京都暴発
近藤昶一郎の顛末

大いに開国論を君前に述べ
連合軍艦へ返答の顛末
和戦激論の顛末
井上高杉伊藤三人小郡に於て防戦
井上死を決す
和議後の混雑
幕府征長の師を興す
俗論勢を得
世子の密書
俗論打撃の計画
麻田の割腹井上の遭難
高杉兵を興して俗論等を襲ふ顛末
高杉伊藤の洋行企図を助くるの件
井上博徒に混して幕情を偵察す
身を変して豊後に入る
高井伊三氏俗論派に嫉視せられる
井上鹿尾島に赴き大久保等と連合
の地歩を作る
西郷等長州に来遊の件
小松帯刀井上を伴て薩摩に下る
勝海舟芸州宮島に於て広沢と和議
を講ず
水師提督キング氏毛利公会談の件
井上英艦に於て倒幕尊王の利害を
説く
薩長連合は坂本龍馬石川誠之助の
斡旋による
薩長連合密約の顛末
幕府大政奉還及伏見開戦の顛末
解説 一坂 太郎



末松 謙澄

名著『防長回天史』の著者
末松謙澄が『防長回天史』
の史料として、維新の元勳
伊藤博文・井上馨両公から
直接聞いた生の声を公開。

本書の特色

- ▼本書は明治三十三年十月、東京の哲学書院より刊行され、現在では稀覯本
となつてゐるものである。
▼目次でわかる通り本書の内容は維新史全般におよび、多くの事件が取り上
げられている。そして高杉晋作、久坂玄瑞、桂小五郎、坂本龍馬などの主要
人物も随所に登場し、その事件が維新の当事者によって生々しく語られてお
り、読み物としてもこれ以上のものはない。
▼末松はこの回顧録から、史料による「裏付け」のとれる部分を『防長回天
史』に採用したと思われるが、残された中にも、明治維新という希有の時代
を知るための多くのエピソードがちりばめられている。
▼維新元勳の回顧録には、内容が整理され、美化され過ぎて、一編の「物語」
に仕上げられたものが多いけれども、本書の編者末松謙澄は、自分の質問と
伊藤井上の回答にできるだけ手を入れず、速記録をそのまま活字化している。
▼末松がこの回顧談を、まるでテープレコーダーに録音するかのように忠実
に残してくれたおかげで、一世紀を経た今なお、私たちは、幕末動乱の渦中
を駆け抜けた志士たちの生の声に接することができるのである。

限定五百部復刻

- 体 裁 A5判二五〇頁
クロス装・箱入
■定 価 四千元(〒380)
■三点セット特価 四万円(〒共)
■特価締切 94年6月30日
■発 売 94年9月上旬
この叢書の後半の三点には高額
本はありません。
セツトのばあい分割・ボーナス
払いに応じます。
僅少部数のため、売り切れのば
あいにご容赦願います。
〒574徳山市銀座2
番 電話の二一九五 マツノ書店